

# ミネヴェル・モリン

## Minever Morin

作家/劇作家

ウンブリア出身。1962年12月22日生まれ。1981年文系高等学校を卒業。

1983年に3か月間ボリビアを旅行し、帰国後、旅の感想と手紙をまとめた『BOLIVIA,UNA REALTA』(ボリビア、ひとつの現実)を発表する。

1986年、イタリア初の女性警察官のひとりとして国家警察に就職。

1987年から1990年にかけてトリエステで過ごし、ベルリンの壁崩壊前の東欧国境を描いた短編小説『LE STAGIONI SUL CONFINE』(国境の季節)と『SILENZIO DI LAVIO』(ラヴィオの沈黙)を執筆。

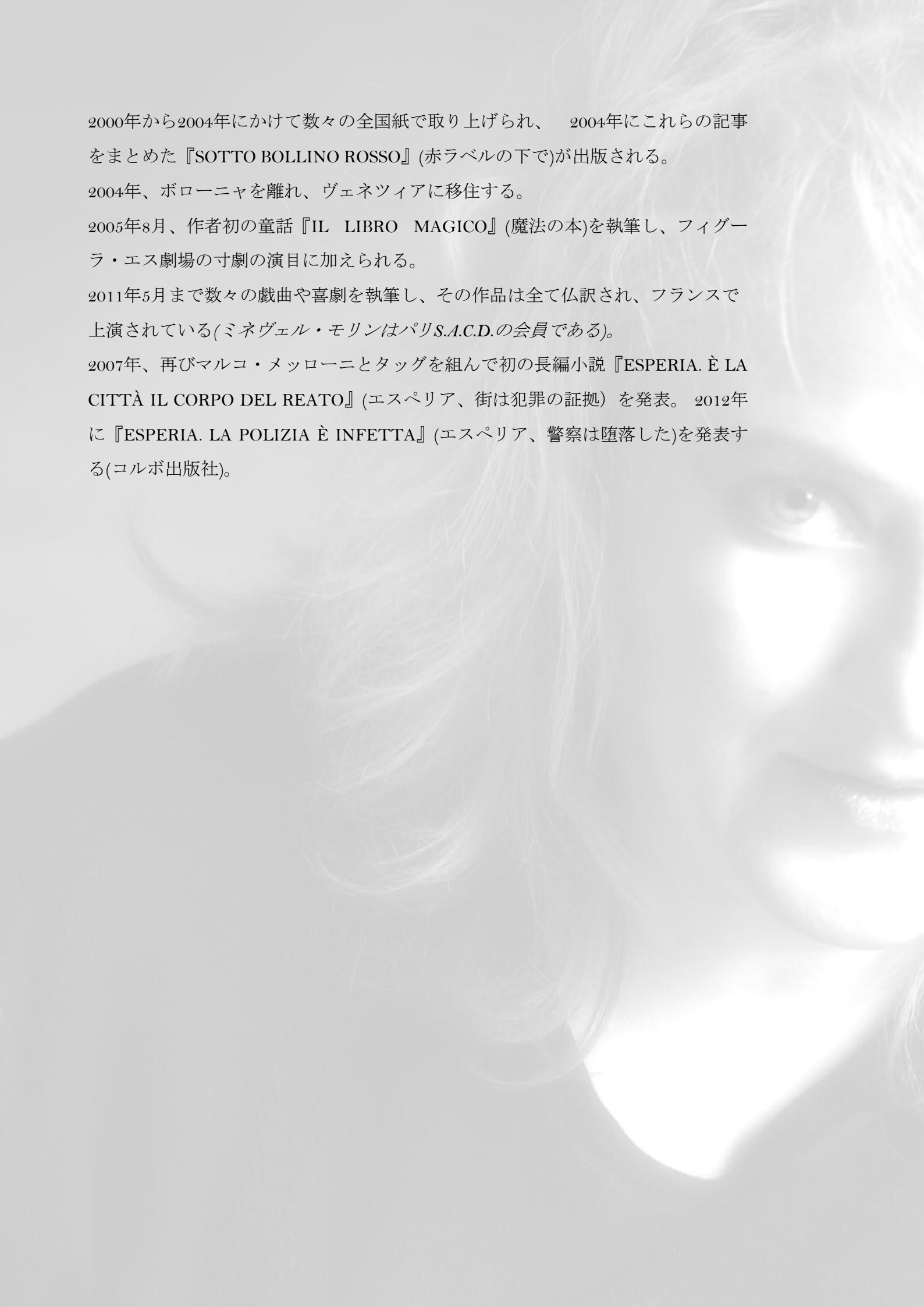
1990年、トリエステを離れ、交通警察の警官としての経験に着想を得た著作

『LICENZA DI PENSARE』(思案のライセンス)を発表し、数々の国営ラジオ放送に出演し、各メディアに取り上げられる。南米を旅する傍ら、警察官としての短期任務でボルツァーノからカタニアまでイタリア国内を巡回する。

ボローニャに定住し、2000年に同僚の自殺に苦悩する刑事と国際麻薬密売組織に関わるコロンビア人の少年との交流を描いた実話に基づく短編小説『OCCHI DI SORCIO』(ネズミの目)を友人で同僚のマルコ・メッローニとの共同執筆で発表する。

2001年、舞台用に脚色された同作品でナポリ演劇祭の劇作賞受賞。2005年、シリロのフランコ・エンリクエツ新演劇祭にて『OCCHI DI SORCIO』が国内で初演される。『OCCHI DI SORCIO』はブリュッセルのロイヤル・ドゥ・パルク劇場の協力でトーニ・チェッキナートとニコール・コルシャによって仏訳(仏題『OEIL DE FOUINE』)され、2010年10月、リールのレ・エディション・ラ・フォンテーヌ社から出版される。

2002年にマルコ・ビアージ教授が極左テロ組織『赤い旅団』にボローニャで殺害された事件を受け、2004年に殺された教授に捧げた戯曲第2弾、『L'OMBRA DEI PORTICI』(柱廊の影)を執筆する。戯曲は演出も担当したマウロ・マルケーゼの主演でヴェネツィア、ローマ、更に市が後援したボローニャのイタリア各都市で上演され、2009年3月にはディミ・ディ・デルフェの演出でパリにて上演された。



2000年から2004年にかけて数々の全国紙で取り上げられ、2004年にこれらの記事をまとめた『SOTTO BOLLINO ROSSO』(赤ラベルの下で)が出版される。

2004年、ボローニャを離れ、ヴェネツィアに移住する。

2005年8月、作者初の童話『IL LIBRO MAGICO』(魔法の本)を執筆し、フィグーラ・エス劇場の寸劇の演目に加えられる。

2011年5月まで数々の戯曲や喜劇を執筆し、その作品は全て仏訳され、フランスで上演されている(ミネヴェル・モリンはパリS.A.C.D.の会員である)。

2007年、再びマルコ・メッローニとタッグを組んで初の長編小説『ESPERIA. È LA CITTÀ IL CORPO DEL REATO』(エスペリア、街は犯罪の証拠)を発表。2012年に『ESPERIA. LA POLIZIA È INFETTA』(エスペリア、警察は墮落した)を発表する(コルボ出版社)。